



## 「始業式」と「入学式」

校長 鈴木 英 顕

〇4月7日は始業式を、翌8日は入学式を挙行了いたしました。式辞の内容を皆様にお伝えするために、各式でお話したことのあるすじ(要約)を書き記しました。

### 始業式 式辞 (要約) 4月7日

ノミは、体長1~2mm程度ですが、1~2mの高さを跳べるそうです。

そんな脚力のあるノミを、50cmの高さの箱に入れて蓋をしてみます。

しばらくは、箱から逃げようとジャンプします。しかし、蓋にぶつかって逃げる事ができません。

すると、ノミは跳ぶことをあきらめてしまいます。そこで、箱の蓋を取ってみます。

ノミは跳びますが、50cmの高さを越える事ができません。本当であれば、1mも2mも跳べるはずなのに。

しかし、そのノミを再び高く跳ばせることができます。

それは、高く跳べるノミと一緒にすることです。

最初は50cmしか跳べなくなったノミも、2m跳んでいる友達の姿を見て、自分も跳べるんだと自信を取り戻し、飛べるようになります。

この話から二つのことをみなさんに伝えます。

思い込みによる「心のブレーキ」がかかると本来の能力を出すことができないということです。

自分で限界を決めてしまうとそれ以上前に進むことができなくなってしまいます。



つまり、駄目だと思ったところで、すべてが終わってしまいます。

もうひとつは、友達や環境は大事だということです。

それぞれお互いが高めあえる友達になってほしいし、努力を妨げる行動はしてほしくありません。

安心して学び、遊べる環境をお互いにつくってほしいと思います。

まずは、きょうから「できる」と思ってスタートしましょう。

## 入学式 式辞（要約）4月8日

電球を発明した人は誰だか知っていますか？

エジソンですね。

しかし、実は最初に電球を発明した人はエジソンではありません。

ジョセフ・スワンという人が、エジソンより1年も前に電球の発明に成功しています。

それでは、どうして最初に電球を発明したスワンより、エジソンの方が有名なのでしょうか？

実は、スワンの電球は大きくて、短い時間しか点灯せず実用になりにくかったのです。

それに比べて、エジソンの電球は、1000時間以上も点灯し続けることができたのです。

エジソンが長い時間点灯する電球を発明したからこそ、世の中に電球が広まったのです。

つまり、多くの人が電球を使うことができるようになったのは、エジソンのおかげだということで、エジソンのほうが有名になったのです。

それでは、エジソンは、電球を長い時間点灯させるために、何回、実験をしたのでしょうか？

1万回だそうです。

「1万回、失敗しても実験を続けてこられたのは、どうしてですか。」との問いに、

「私は失敗なんかしていない。それは失敗じゃなくて、『その方法ではうまくいかないことがわかった』という成功なのです」と話したとか。

だから、エジソンは電灯がつかなくても、そこであきらめずに「もう1回やってみよう！」と実験を続けたのです。

「もう無理だ」と思ったところから、さらにもう1回がんばることが大切だということです。

私たちの弱みは、少々の失敗をすると、凹んであきらめてしまうことです。

中学校に入学して、何もかも新しいスタートです。新しいことがたくさん見つかるはずですよ。

興味をもったものに失敗を恐れずに、何回も挑戦しましょう。挑戦した数だけ、中学校生活が充実します。

へこたれない力、続ける力、やってみようと思う力…こんな力を身に付けましょう。



2025年4月8日

町田市立町田第三中学校 校長 鈴木 英顕

### 【保護者の皆様】

4月1日に、校長として町田第三中学校に着任した鈴木 英顕(すずき ひであき)と申します。

町田第三中学校では、自分らしく、そして自分も仲間も大切にすることを育て、すべての三中生が「登校を楽しみにできる学校」を目指します。

そのために、あらゆる教育活動を通して教職員一同、お子様の成長を支えてまいります。

何卒、本校の教育活動にご理解とご支援をいただければ幸甚でございます。

1年間、よろしくお願い申し上げます。

町田市立町田第三中学校教職員一同